科目区分 専門科目・ 一般科目

	(専)日本航空大学校						
学科 コース名	操縦科4年制コース	担当	加藤 靖啓	開講時期	2年次 通年		
科目名	航空管制Ⅱ	授業 方法	講義演習·実習	教育時間	60		
教科書	AIM-JAPAN						
参考書	管制方式基準						

	教 育 <i>0</i>	)内	容			
授業概要	事業用操縦士に必要な通信の基礎、無線工学、航空援助施設、航空交通業務、管制方式 基準及び、航空機の実運航についてのATC概要並びに航空安全に対して理解させ実施で きるようにする。					
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして	航空管制	の授業を行って	いる。		
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラー	ーニングをフ	有効的に活用す	さる。		
到達目標	1.実運航に際して、管制機関との連絡方法を確実に理解させる。					
学業成績の	期末得点	9	<b>E</b> 技点	評点	評価点	
評価方法	80%		_	20%	100%	
	授業計画	Î			(1単位時間=50分)	
No.	教 育 項	目		時間	備考	
1	航空援助施設一般			10		
2	航空交通管制一般			20		
3	飛行場におけるATCプロシージュア			10		
4	緊急操作			10		
5	安全対策			10		

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航空管制Ⅱ	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
航空援助施設一般	a 航空保安施設 b 通信組織とレーダー網 c 着陸用援助施設 d 航空障害灯・昼間障害標識 e 飛行場標識とマーキング	4月~5月	10	
航空交通管制一般	a 航空交通業務 b 空域 c 管制機関 d 管制方式通則 e 気象情報 f 通信要領 g 飛行方式	6月	20	
ジュア ジュア ジュア	g 飛行方式         a 飛行場管制方式一般         b タクシー及び出発、到着機         c 可視信号         d 飛行場灯火の運用	7月	10	
緊急操作	<ul><li>a 捜索救難</li><li>b 遭難及び緊急時の手順</li><li>c 不時着水、ハイジャック</li><li>d 通信機等機材故障の場合</li></ul>	11月~3月	10	

科目区分 専門科目・ 一般科目

	(専)日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース	担当	加藤靖啓 (常勤)	開講時期	2年次 通年	
科目名	航空管制Ⅱ	授業 方法	講義演習·実習	教育時間	90	
教科書	AIM-JAPAN					
参考書	管制方式基準					

	教 育 <i>0</i>	り内	容				
授業概要	事業用操縦士及び計器飛行証明に必要な通信の基礎、無線工学、航空援助施設、航空交通業務、管制方式基準及び、航空機の実運航についてのATC、航空安全対策等を正しく理解させ、実地試験に合格させる。						
実務経験	事業用操縦士の実務経験	を活かして	航空管制の授	業を行ってい	る。		
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラー	ーニングを	有効的に活用す	<b>ける。</b>			
到達目標	1.実運航に際して、管制機関との連絡方法を確実に理解させる。						
学業成績の	期末得点	Ę	<b></b>	評点	評価点		
評価方法	80%		0%	20%	100%		
	授 業 計 画	Î			(1単位時間=50分)		
No.	教 育 項	目		時間	備考		
1	航空援助施設一般			10			
2	航空交通管制一般			20			
3	飛行場におけるATCプロシージュア			20			
4	計器飛行方式による運航			20			
5	緊急操作			10			
6	安全対策			10			

 

 学科
 操縦科 2年制コース
 学年
 2年

 科目
 航空管制Ⅱ
 授業 方法
 講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
助施設一	a 航空保安施設 b 通信組織とレーダー網 c 着陸用援助施設 d 航空障害灯・昼間障害標識 e 飛行場標識とマーキング	4月~5月	10	
般	a 航空交通業務 b 空域 c 管制機関 d 管制方式通則 e 気象情報 f 通信要領 g 飛行方式	6月	20	
飛行番に知けるATCプロシージュア	<ul><li>a 飛行場管制方式一般</li><li>b タクシー及び出発、到着機</li><li>c 可視信号</li><li>d 飛行場灯火の運用</li></ul>	7月	20	
計器飛行方式による運航	a 計器飛行方式による出発 b 計器飛行方式によるエンルート c 計器飛行方式による到着	8月~10月	20	
緊急操作	<ul><li>a 捜索救難</li><li>b 遭難及び緊急時の手順</li><li>c 不時着水、ハイジャック</li><li>d 通信機等機材故障の場合</li></ul>	11月~3月	10	

科目区分 専門科目・ 一般科目

	(専)日本航空大学校						
学科 コース名	操縦科4年制課程	担当	(常勤)	開講時期	2年次 通年		
科目名	航空気象 Ⅱ	授業 方法	講義·演習)実習	教育時間	60		
教科書	図解パイロットに必要な航空気象 気象・天気図のすべてがわかる本 気象予報のための天気図の見方						
参考書	AIM-J TAKE OFF						

	教 育 0	D 内	容			
授業概要	事業用操縦士に必要な気象の基礎、航空気象、各種天気図、各種気象通報式及び航空機の実運航についての関係気象をおおむね理解させる。					
実務経験	事業用操縦士としての実務経験を活	らいし航空気 かんりゅう かんりょう かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんしん かんし	気の授業を行	っている。		
授業の進め方	授業では板書とICT、ハンドアウト等	を活用してい	る。			
到達目標	<ul><li>1 気象の一般知識を理解できること。</li><li>2 事業用操縦士として必要とされる航空気象知識を理解できること。</li><li>3 収集した気象情報、天気図をもとに運航に必要な気象をおおむね把握、説明できること。</li></ul>					
学業成績の	期末得点	実	技点	評点	評価点	
評価方法	80%	]	10%	10%	100%	
	授 業 計 画	Ī			(1単位時間=50分)	
No.	教 育 項	目		時間	備考	
1	気象の知識と予備知識			5		
2	天気図			10		
3	日本の四季と気象			5		
4	空港の気象			10	_	
5	実運航と気象		_	20		
6	ウェザーブリーフィング			10		

 

 学科
 操縦科4年制課程
 学年
 2年

 科目
 航空気象Ⅱ
 授業 方法
 講義

項目		*************************************	実施月	教育時間	備考
	a	大気			
気	b	温度			
象の	С	気圧			
知	d	雲			
識と	е	大気の状態	4月~7月	5	
知識と予備知識	f	風			
知	g	前線と気団			
識	h	竜巻とじん旋風			
	I	台風			
	a	地上解析図(ASAS)			
天	b	地上海上悪天予想天気図(FSAS24 FSAS48)			
天 気 図	С	高層天気図(AUPQ78 AUPQ35)	7月~10月	10	
凶	d	その他の天気図(AXFE FXJP FBJP)			
	е	気象衛星画像とレーダー解析図			
目	a	日本の気候帯と地形			
	b	春の気象			
本の四季と気象	С	夏の気象	10月	5	
多と	d	秋の気象	10/1	O	
気気	е	冬の気象			
<b>家</b>	f	その他(梅雨、秋雨、フェーン現象、台風)			
空	a	飛行場実況気象			
港の	b	飛行場予報	11月	10	
気象	С	飛行場警報	/4		
<b>3</b> K	d	気象サービス			
実	a	気象情報の収集、分析			
実運航と気象	b	気象情報の確認、PRE-BRIFING			
加と	С	出発飛行場、飛行経路、目的飛行場、代替飛行場選定	12月~3月	20	
 気 象	d	航行中の気象情報収集、判断			
	е	実運航オブザーブ			

学科	操縦科4年制課程	学年	2年
科目	航空気象Ⅱ	授業 方法	講義

項目		教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
ゥ	a	気象情報の収集、分析			
ェザ	b	気象情報の確認、WX-BRIFING要領			
ーブ	С	IMC/VMC			
Į į	d	凍結気象状態	4月~3月	10	
フ	е	航空機の離着陸性能と風			
ィン	f	代替計画と搭載燃料			
グ	е	WX-BRIFINGの実施			

科目区分 専門科目・ 一般科目

(専)日本航空大学校						
学科 コース名	操縦科2年制課程	担当	(常勤)	開講時期	2年次 通年	
科目名	航空気象 Ⅱ	授業 方法	講義·演習·実習	教育時間	60	
教科書	図解パイロットに必要な航空気象 気象・天気図のすべてがわかる本 気象予報のための天気図の見方					
参考書	AIM-J TAKE OFF					

	教 育 <i>0</i>	)内	容				
授業概要	事業用操縦士及び計器飛行方式に必要な気象の基礎、航空気象、各種天気図、各種気象 通報式及び航空機の実運航についての関係気象を理解させる。						
実務経験	事業用、計器飛行方式操縦士として	の実務経	験を活かし航空	気象の授業を	を行っている。		
授業の進め方	授業では板書とICT、ハンドアウト等	を活用して	いる。				
到達目標	2 事業用操縦士、計器飛行方式として	<ul><li>1 気象の一般知識を理解できること。</li><li>2 事業用操縦士、計器飛行方式として必要とされる航空気象知識を理解できること。</li><li>3 収集した気象情報、天気図をもとに運航に必要な気象を把握、説明できること。</li></ul>					
学業成績の	期末得点	9	<b>본技点</b>	評点	評価点		
評価方法	80%		10%	10%	100%		
	授 業 計 画	İ			(1単位時間=50分)		
No.	教 育 項	目		時間	備 考		
1	気象の知識と予備知識			5			
2	天気図			5			
3	日本の四季と気象			5			
4	空港の気象			5			
5	実運航と気象			20			
6	ウェザーブリーフィング			20			

学科	操縦科2年制課程	学年	2年
科目	航空気象Ⅱ	授業	講義

項目		教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
気	a	大気			
	b	温度			
気象の	С	気圧			
知	d	雲			
知識と予備知識	е	大気の状態	4月	5	
予	f	風			
知	g	前線と気団			
識	h	竜巻とじん旋風			
	Ι	台風			
	a	地上解析図(ASAS)			
天	b	地上海上悪天予想天気図(FSAS24 FSAS48)			
天 気 図	С	高層天気図(AUPQ78 AUPQ35)	7月~9月	10	
	d	その他の天気図(AXFE FXJP FBJP)			
	е	気象衛星画像とレーダー解析図			
目	a	日本の気候帯と地形			
本の	b	春の気象			
四	С	夏の気象	4月	5	
四季と気象	d	秋の気象	1/1	Ü	
気	е	冬の気象			
<b>教</b>	f	その他(梅雨、秋雨、フェーン現象、台風)			
空	a	飛行場実況気象			
港の	b	飛行場予報	9月~10月	5	
気象	С	飛行場警報	/-		
	d	気象サービス			
実	a	気象情報の収集、分析			
実運航と気象	b	気象情報の確認、PRE-BRIFING			
본	С	出発飛行場、飛行経路、目的飛行場、代替飛行場選定	4月~3月	25	
気象	d	航行中の気象情報収集、判断			
	е	実運航オブザーブ			

学科	操縦科2年制課程	学年	2年
科目	航空気象Ⅱ	授業 方法	講義

項目		教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
ウ ェ ザ	a h	気象情報の収集、分析 気象情報の確認、WX-BRIFING要領			
サーブ	С	IMC/VMC			
IJ l	d	凍結気象状態	4月~3月	30	
フィン	e f	航空機の離着陸性能と風 代替計画と搭載燃料			
グ	е	WX-BRIFINGの実施			

科目区分 専門科目・ 一般科目

(専)日本航空大学校						
学科 コース名	操縦科 4年制コース	担当	野口 浩一 (常勤)	開講時期	2年次 通年	
科目名	航空工学Ⅱ	授業 方法	講義演習·実習	教育時間	60	
教科書	航空工学入門					
参考書	航空力学					

	教 育 <i>0</i>	) 内:	容				
授業概要	事業用操縦士学科試験及び口述試験合格を目指す。						
実務経験	航空自衛隊での操縦教官の実務経	験を活かし、	航空工学の授	養業を行ってい	る。		
授業の進め方	授業では、板書とプレゼンテーション	を活用する。					
到達目標	航空力学及び航空工学の各項目につい	って、正しく理解	解している				
学業成績の	期末得点	実技	<b>支</b> 点	評点	評価点		
評価方法	80%	_	-	20%	100%		
	授 業 計 画	Ì			(1単位時間=50分)		
No.	教 育 項	目		時 間	備考		
1	航空力学			20			
2	機体			20			
3	航空エンジン			10			
4	装備品			10			

学科	操縦科 4年制コース	学年	2年
科目	航空工学Ⅱ	授業	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
	a 流体力学の基礎			
	b 翼型理論			
	c 飛行機の翼			
航	d 全機の空力特性			
空	e 性能	4月~6月	20	
航空力学	f 安定性	27,	_ = 0	
	g 操縦性			
	h 重量および重心位置			
	I 航空機の振動現象			
	j 小テスト			
	a 航空機材料			
	b 航空機構造の種類			
	c 主翼構造			
	d 胴体構造			
	e 尾翼構造			
Late	f 航空機にかかる荷重			
機 体	g 油圧·空気圧系統	7月~10月	20	
''	h 着陸系統			
	i 操縦系統			
	j 空気調和·与圧系統			
	k 防除氷系統			
	1 補助動力装置(APU)			
	m 小テスト			
	a エンジンの歴史		_	
航	b サイクル			
航 空 エ	c ピストン・エンジン	10月~12月	10	
ジン	d プロペラ	10月~12月	10	
×	e ガスタービン・エンジン			
	f 小テスト			

学科	操縦科 4年制コース	学年	2年
科目	航空工学Ⅱ	授業方法	講義

項目	考	女 育	内	容	実施月	教育時間	備考
	a 電気装備						
	b 電子装備						
装	c 航空計器				1	10	
装備品	d 自動飛行制御場	置			1月~3月	10	
	e 非常用装備						
	f 小テスト						

科目区分 専門科目・ 一般科目

	(専)日本航空大学校						
学科 コース名	操縦科 2年制コース	担当	野口 浩一 (常勤)	開講時期	2年次 通年		
科目名	航空工学Ⅱ	授業 方法	講義演習·実習	教育時間	90		
教科書	航空工学入門						
参考書	航空力学						

	教 育 <i>0</i>	)内	容			
授業概要	事業用操縦士学科試験及び口述試験合格を目指す。					
実務経験	航空自衛隊での操縦教官の実務経	験を活かし、	、航空工学の授	受業を行ってい	る。	
授業の進め方	授業では、板書とプレゼンテーション	を活用する	0			
到達目標	航空力学及び航空工学の各項目について説明ができる。					
学業成績の	期末得点	実	技点	評点	評価点	
評価方法	80%		%	20%	100%	
	授 業 計 画	İ			(1単位時間=50分)	
No.	教 育 項	目		時間	備考	
1	航空力学			25		
2	機体			25		
3	航空エンジン	20				
4	装備品	20				

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航空工学Ⅱ	授業	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
	a 流体力学の基礎			
	b 翼型理論			
	c 飛行機の翼			
航	d 全機の空力特性			
航空力学	e 性能	4月~6月	25	
刀   学	f 安定性	_,,,		
	g 操縦性			
	h 重量および重心位置			
	I 航空機の振動現象			
	j 小テスト			
	a 航空機材料			
	b 航空機構造の種類			
	c 主翼構造			
	d 胴体構造			
	e 尾翼構造			
LAIA	f 航空機にかかる荷重			
機 体	g 油圧·空気圧系統	6月~10月	25	
	h 着陸系統			
	i 操縦系統			
	j 空気調和·与圧系統			
	k 防除氷系統			
	l 補助動力装置(APU)			
	m 小テスト			
	a エンジンの歴史			
航	b サイクル			
航 空 エ	c ピストン・エンジン	10月~11月	20	
ジン	d プロペラ	10月~11月	20	
ン	e ガスタービン・エンジン			
	f 小テスト			

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航空工学Ⅱ	授業 方法	講義

項目	教	育	内	容		実施月	教育時間	備考
	a 電気装備							
	b 電子装備							
装 備 品	c 航空計器						00	
品	d 自動飛行制御装	置				12月~2月	20	
	e 非常用装備							
	f 小テスト							

科目区分 専門科目・ 一般科目

(専)日本航空大学校							
学科 コース名	操縦科4年制コース	担当	森 一郎 (常勤)	開講時期	2年次 通年		
科目名	航空法規Ⅱ	授業 方法	講義)演習·実習	教育時間	60		
教科書	航空法						
参考書	AIM-J						

	教 育 <i>0</i>	)内	容			
授業概要	操縦士に必要な航空機登録、航空機の安全性、航空従事者及び、航空機の運航についての関係法規を理解させる。					
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして	「航空法の打	受業を行ってい	る。		
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラー	ーニングをマ	有効的に活用す	<b>上る。</b>		
到達目標	1.実運航に必要な法律を理解させる					
学業成績の	期末得点	美	技点	評点	評価点	
評価方法	80%		_	20%	100%	
	授業計画	Î			(1単位時間=50分)	
No.	教 育 項	目		時間	備 考	
1	総則			10		
2	登録			10		
3	航空機の安全性			10		
4	航空従事者			10		
5	航空機の運航			20		

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航空法規Ⅱ	授業 方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
総則	<ul><li>a 国際民間航空条約</li><li>b 国際民間航空機関</li><li>c 航空法の目的</li><li>d 法、施行令、施行規則</li></ul>	4月~5月	10	
登 録	<ul><li>a 登録の要件</li><li>b 航空機登録証明書</li><li>c 登録の種類</li><li>d 打刻、識別版</li></ul>	6月	10	
航空機の安全性	a 耐空証明 b 型式証明 c 修理改造検査 d 予備品証明	7月	10	
航空従事者	<ul><li>a 技能証明の限定</li><li>b 技能証明の要件</li><li>c 航空身体検査</li><li>d 航空英語能力証明</li></ul>	8月~10月	10	
航空機の運航	<ul> <li>a 航空機に備え付ける書類</li> <li>b 航行に必要な装備品</li> <li>c 航空従事者に関する事項</li> <li>d 見張りの義務</li> <li>e 機長の義務</li> <li>f 運航全般</li> </ul>	11月~3月	20	

科目区分 専門科目・ 一般科目

(専)日本航空大学校							
学科 コース名	操縦科 2年制コース	担当	森 一郎 (常勤)	開講時期	2年次 通年		
科目名	航空法規Ⅱ	授業 方法	講義)演習·実習	教育時間	90		
教科書	航空法						
参考書	AIM-J						

	教 育 <i>0</i>	D 内	容			
授業概要	操縦士に必要な航空機登録、航空機の安全性、航空従事者及び、航空機の運航についての関係法規を理解させる。					
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして	て航空法規	の授業を行って	こいる。		
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラー	ーニングを有	有効的に活用す	<b>上る。</b>		
到達目標	1.実運航に必要な法律を理解させる。					
学業成績の	期末得点	集	技点	評点	評価点	
評価方法	80%		0%	20%	100%	
	授業計画	Î			(1単位時間=50分)	
No.	教 育 項	目		時間	備 考	
1	総則			20		
2	登録			20		
3	航空機の安全性			10		
4	航空従事者			20		
5	航空機の運航			20		

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航空法規Ⅱ	授業 方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
総則	<ul><li>a 国際民間航空条約</li><li>b 国際民間航空機関</li><li>c 航空法の目的</li><li>d 法、施行令、施行規則</li></ul>	4月~5月	20	
登 録	<ul><li>a 登録の要件</li><li>b 航空機登録証明書</li><li>c 登録の種類</li><li>d 打刻、識別版</li></ul>	6月	20	
航空機の安全性	a 耐空証明 b 型式証明 c 修理改造検査 d 予備品証明	7月	10	
航空従事者	<ul><li>a 技能証明の限定</li><li>b 技能証明の要件</li><li>c 航空身体検査</li><li>d 航空英語能力証明</li></ul>	8月~10月	20	
航空機の運航	<ul> <li>a 航空機に備え付ける書類</li> <li>b 航行に必要な装備品</li> <li>c 航空従事者に関する事項</li> <li>d 見張りの義務</li> <li>e 機長の義務</li> <li>f 運航全般</li> </ul>	11月~2月	20	

科目区分 専門科目・ 一般科目

1/4ページ

(専)日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 4年制コース	担当	森内·森·HAA	開講時期	2年次 通年
科目名	航法Ⅱ	授業 方法	講義演習·実習	教育時間	60
教科書	PRIVATE PILOT「Jeppesen」				
参考書	航法計算盤、プロッター、区分航空	図、飛行	f機操縦教本、TAI	KE OFF(安全	全飛行への招待)

評価方法     80%     -     20%       授業計画     (1単位)	
授業の進め方       機長としての実運航要領を実施させる。         1. 学科試験及び実地試験の合格を目指し自家用操縦士のライセンスを取得する         学業成績の評価方法       期末得点       実技点       評点         授業計画       投業計画	)
1. 学科試験及び実地試験の合格を目指し自家用操縦士のライセンスを取得する         到達目標         学業成績の評価方法       期末得点 実技点 評点 評価方法 20%         投業計画	
到達目標       学業成績の 評価方法     期末得点 実技点 評点 評価方法 80% - 20%       授業計画	
評価方法     80%     -     20%       授業計画	評価点
授業計画	
(1単位	100%
│ No │ 数 育 項 目 │ 時 間 │ 4	拉時間=50分)
200 N H N N	備考
1 空中航法 1	
2 諸元解説 1	
3 航空図 1	
4 チャートプロッティング 2	
5 風力三角形 8	
6 航法計算盤 8	
7 磁気羅針儀 1	
8 高度計 1	
9 速度計 1	
10 無線航法 3	
11 飛行計画 10	
12 地文航法 2	
13 行動半径と等時点 1	
14 学科·実地試験対策 20	

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
空中航法	a 空中航法	4月	1	
航 法	b 航法の分類	4万	1	
謎	a 地球の形と大きさ			
元	b 地球に関する用語	4月	1	
諸元解説	c 方位と距離		1	
	d 時			
	a 地図の特徴			
航空図	b 航空図の要件	4月	1	
図	c メルカトル航空図	274	-	
	d ランベルト航空図			
ロッティ	a プロッター			
アイト	b ランベルト図のプロッティング	4月	2	
ィト グプ	c メルカトル図とランベルト図			
	a 飛行中の風の影響			
	b 飛行中の風力三角形			
風	c 計画の風力三角形			
刀三	d 飛行中の風力三角形の作図法	4月~5月	8	
風力三角形	e 計画の風力三角形の作図法			
	f作図板の概要			
	g 飛行中の風力三角形の作図板解法			
	h 計画の風力三角形の作図板解法			
航	a 乗除算計算			
航法計算盤	b 航法諸元の算出	5月~6月	8	
算   盤	c 単位の換算			
	d 三角関数応用			
	a 地磁気			
禄	b 磁気羅針儀の構造			
磁気羅針儀	c 偏差と自差 は 時業の原因	7 🗆	1	
針	d 時差の原因	7月	1	
<b>儀</b>	e 動的誤差			
	f 定針儀			
	g ジャイロシンコンパス			

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
高度計	a 高度の種類 b 標準大気 c 気圧高度敬計 d 高度計の規正 e 高度計の誤差 f 真高度の求め方 g 気圧高度の求め方	7月	1	
速度計	h 密度高度の求め方 a 対気速度計 b 真対気速度の求め方 c 速度計の速度	7月	1	
無線航法	a NDB(ADF) b VOR c DME d TACANとVORTAC e 無線航法と位置の線 f タイムディスタンスチェック	7月	3	
飛 行 計 画	a 飛行計画の準備 b 飛行計画の作成(飛行ルートの策定))	7月~9月	10	
地文航法	a 地形地物と航空図 b 航空図判読 c 地文航法の準備 d 地文航法における機位決定法 e 地文航法の実施要領 f 偏位角に関する公式 g 地文航法実施上の留意事項 h 地文航法と最新の航法 I 管制圏等の回避 j 実施上の留意事項	10月	2	
軽行 時と動 点等半	a 行動半径 b 等時点	10月	1	

科目区分 専門科目・ 一般科目

1/4ページ

	(専)日本航空大学校					
学科コース名	操縦科 2年制コース	担当	岡山航空 新日本航空	開講時期	2年次 通年	
科目名	航法Ⅱ	授業 方法	講義演習·実習	教育時間	90	
教科書	自家用・事業用操縦士の航法 計器飛行演習	AIMJ	APAN			
参考書	航法計算盤、プロッター、区分航空 ENROUTE CHART、事業用・計器飛行			KE OFF(安全	全飛行への招待)	

教育の内容							
授業概要	事業用操縦士及び計器飛行証明の学科試験合格及び地上で習得したことを実飛行に対応できる様にする。						
実務経験	航空機事業の実務を活かして、安全	航空機事業の実務を活かして、安全・確実・迅速な飛行方法・要領を理解させる。					
授業の進め方	機長としての実運航要領を実施させ	る。					
到達目標	1. 学科試験及び実地試験の合格を	き目指し自然	家用操縦士のラ	イセンスを取っ	得する。		
学業成績の	期末得点	5	<b>実技点</b>	評点	評価点		
評価方法	80%		%	20%	100%		
	授 業 計 画	Î			(1単位時間=50分)		
No.	教 育 項	目		時間	備考		
1	空中航法			1			
2	諸元解説			1			
3	航空図			1			
4	チャートプロッティング			8			
5	風力三角形			15			
6	航法計算盤			15			
7	磁気羅針儀			1			
8	高度計			1			
9	速度計			1			
10	無線航法			5			
11	飛行計画			15			
12	地文航法			4			
13	行動半径と等時点			2			
14	学科・実地試験対策			20			

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
空中航法	a 空中航法 b 航法の分類	4月	1	
諸元解説	<ul><li>a 地球の形と大きさ</li><li>b 地球に関する用語</li><li>c 方位と距離</li><li>d 時</li></ul>	4月	1	
航空図	<ul><li>a 地図の特徴</li><li>b 航空図の要件</li><li>c メルカトル航空図</li><li>d ランベルト航空図</li></ul>	4月	1	
ロッティング	a プロッター b ランベルト図のプロッティング c メルカトル図とランベルト図	4月	8	
風力三角形	a 飛行中の風の影響 b 飛行中の風力三角形 c 計画の風力三角形 d 飛行中の風力三角形の作図法 e 計画の風力三角形の作図法 f 作図板の概要 g 飛行中の風力三角形の作図板解法 h 計画の風力三角形の作図板解法	4月~5月	15	
航法計算盤	<ul><li>a 乗除算計算</li><li>b 航法諸元の算出</li><li>c 単位の換算</li><li>d 三角関数応用</li></ul>	5月~6月	15	
磁気羅針儀	<ul> <li>a 地磁気</li> <li>b 磁気羅針儀の構造</li> <li>c 偏差と自差</li> <li>d 時差の原因</li> <li>e 動的誤差</li> <li>f 定針儀</li> <li>g ジャイロシンコンパス</li> </ul>	7月	1	

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
高度計	<ul><li>a 高度の種類</li><li>b 標準大気</li><li>c 気圧高度敬計</li><li>d 高度計の規正</li><li>e 高度計の誤差</li></ul>	7月	1	
	f 真高度の求め方 g 気圧高度の求め方 h 密度高度の求め方			
速度計	<ul><li>a 対気速度計</li><li>b 真対気速度の求め方</li><li>c 速度計の速度</li></ul>	7月	1	
無線航法	a NDB(ADF) b VOR c DME d TACANとVORTAC e 無線航法と位置の線 f タイムディスタンスチェック	7月	5	
飛行計画	a 飛行計画の準備 b 飛行計画の作成(飛行ルートの策定))	7月~9月	15	
地文航法	a 地形地物と航空図 b 航空図判読 c 地文航法の準備 d 地文航法における機位決定法 e 地文航法の実施要領 f 偏位角に関する公式 g 地文航法実施上の留意事項 h 地文航法と最新の航法 I 管制圏等の回避 j 実施上の留意事項	10月	4	
と行 等動 時半 点径	a 行動半径 b 等時点	10月	2	